

9/1(日)は「防災の日」(8/30(金)~9/5(木)は「防災週間」)です。

「防災の日」の由来にもなっている「二百十日(にひゃくとうか)」を知っていますか？

「二百十日」とは、雑節(季節の移り変わりを的確につかむために設けられた特別な暦日)のひとつで、立春(2月4日頃)から数えて210日目の日を指し、例年9月1日頃にあたります。この時期は、田んぼの稲が色づいて頭を垂れ始める頃で、台風が相次いで日本にやって来る頃とも重なるので農作物が被害を受けることが多く、「二百十日」は農作業に関わる人にとっては油断のならない時期(農家の厄日)と言われています。



台風は、毎年約25個発生し、そのピークは8~9月と言われています。また、今年の9月以降は台風発生数が増えることに加え、発生した台風が日本列島に近づきやすく、さらに日本に近いところで台風が発生しやすいため、発生から接近・上陸までの期間が短くなる傾向があると日本気象協会が発表しています。

「台風に備える」命を守るためにしておきたいこと・準備しておきたい10のこと

大雨や暴風から身を守るには、事前の準備が大切です。

どんな準備をしておけばよいでしょうか？ 知っておくべき10のことをまとめました。

- ① 家の「外」の危険をチェック(側溝や排水溝を掃除し水はけをよくしておく、飛ばされそうなものを片付けておく)
- ② 家の中でも注意を(窓や雨戸にカギをかけておく)
- ③ 最低3日分の「飲料水」や「非常食」を備蓄する(飲料水の目安は、3リットル/1日×3日=9リットル)
- ④ 停電で冷蔵庫やエアコンが機能しない場合に備える
(体を冷やすためには首や脇を冷やすと効果的、ペットボトルに水を凍らせておくことも有効で融けた水は飲料水や生活用水としても使える)
- ⑤ 「非常用持ち出しバッグ」を備える
(非常時に持ち出すものをリュックに詰め、玄関に置くなどしていつでもすぐに持ち出せるようにしておく、バッグは両手が使えるようリュックサックが好ましい)
- ⑥ 「避難場所」や「避難経路」を確認する(日頃から家族で集合場所を話し合っておく)
- ⑦ 安否確認の方法を家族で共有
(災害用伝言ダイヤル「171」に電話を掛けると録音でき、家族などが伝言を再生できる)
- ⑧ 外出は控える(家屋の補修は台風の接近前に終わらせる、増水している川を見に行かない)
- ⑨ 命を守るために早めの避難を(迷うことなく、自主的に避難する)
- ⑩ 「インターネット」や「テレビ・ラジオ」で情報収集する
(大雨警報などの危険度分布が一目でわかる気象庁の「キキクル」 <https://www.jma.go.jp/bosai/risk> で最新の情報が入手できる)

